

学籍番号：4312100505

氏名：山中 あずさ

実習先：諏訪之瀬島

実習期間：平成 29 年 2 月 24 日 ～ 2 月 26 日

【自然環境】

- ・鹿児島市から南西に約 287km の場所にあり、鹿児島本港南埠頭から十島村営フェリーの「フェリーとしま」で、約 10 時間で連絡する。
- ・「フェリーとしま」は鹿児島本港と奄美を週 2 便（7～9 月は 3 便）結んでおり、その間に十島村の各島と連絡している。
- ・諏訪之瀬島は、十島村で二番目に大きい島である。
- ・御岳（標高 799m）という活火山があり、今でも噴煙を上げている。
- ・気候は、亜熱帯と温帯の交差地域であり、年平均気温は 20℃である。
- ・5～6 月には低地から山頂までマルバサツキが一面にピンクの花を咲かせる。



鹿児島本港を
出発



諏訪之瀬島に
到着

【社会的背景】

- ・人口は 80 人、世帯数は 35 世帯。うち、小中学生 16 名、未就学児 6 名。高齢化率は 17.5%、後期高齢化率は 6.25%、生産人口率は 52.5%、年少人口率は 30.0%である。（2017 年 1 月 31 日現在）
- ・就業者数は、約 40 人で、第一次産業は 30.8%、第二次産業は 25.6%、第三次産業は 43.6%で、鹿児島市と比較すると、第一次産業が 3 倍ほど高く、第二次産業も高い。一方で、第三次産業は低い。
- ・西暦 1813 年に大噴火が起こり、ほとんどの人家は消滅し、全島民が避難したため、約 70 年間は無人島となったが、明治期に入り、奄美大島出身の藤井富伝らが入植し開拓された。
- ・教育機関としては、十島村立諏訪之瀬小中学校がある。

【住民の生活】

- ・農業・漁業がさかんに行われている。5～6 月頃になるとトビウオ漁が盛ん。
- ・かつて無人島になったこともあり、島独自の文化というよりは奄美の風習が色濃く残っている。
- ・商店はなく、自動販売機は民宿 3 軒にそれぞれある。

【医療供給体制】

- 医療施設として、病院は無く、診療所が 1 箇所あるが、有床診療所はない。また、歯科診療所もない。
- 医療従事者として、常勤の医師はおらず、非常勤の医師が 1 名いる。歯科医師は常勤・非常勤ともにいない。看護師は診療所に 1 名勤務しているが、歯科衛生士はいない。
- 医師が鹿児島赤十字病院から 3 ヶ月交代で長期派遣され、口之島、中之島、平島、諏訪之瀬島の巡回診療を行っている。中之島には常駐医がいる。
- 急患の場合には、鹿児島県防災ヘリや海上自衛隊の救難ヘリを利用する。
- 今回の巡回診療では、検査の人が多く、治療が必要な人は少なかった。検査以外では、齲蝕処置、咬合治療、義歯修理を行った。



公民館の中とじか号で診療

【実習概要】

日付	内容
2/24 (金)	23:00 鹿児島本港からフェリーで諏訪之瀬へ出発。 8:00 諏訪之瀬島に到着。診療の準備。
2/25 (土)	9:10 午前の診療開始。 小児の検診・フッ素塗布と成人の検査・SC・PMTC。 他に、齲蝕処置も。 12:30 民宿に戻り、昼休憩。 14:00 午後の診療開始。 成人の検査・SC・PMTC、咬合治療、義歯修理。 17:00 診療終了。 8:00 朝食後、観光。
2/26 (日)	11:15 諏訪之瀬島からフェリーで鹿児島本港へ。 21:30 鹿児島本港に到着・解散。



諏訪之瀬島で座礁していた
パナマ船籍のタンカー「サガン」



牧場にて



夕食はみんなで BBQ

【振り返り記録】

- 今回は2泊3日という行程で巡回診療を行ったが、このうち1日を移動時間に使いました。諏訪之瀬島は思ったよりも遠く、フェリーで10時間もかかるので、移動だけで疲れがありました。歯科診療所のない諏訪之瀬島の人たちは、歯科治療を受けるためにフェリーで鹿児島市に通っていると思うと、大変だと痛感しました。
- 初めてこじか号の中の設備をみて、普段大学で使っているユニットとあまり違いがなく、驚きました。公民館の中も設備が整っていて、いつも通りの環境ですることができたので術者としてもやりやすかったです。
- こじか号も公民館も少し照明が暗かったので、いつも以上にライトをしっかりと当てる必要がありました。また公民館のライトがユニットに付随しているライトではなかったので、取り扱いが少し難しく感じました。
- 診療前までは歯科診療所がない地域なので、口腔状態の悪い人が多いのではないかと少し不安がありました。島民は歯磨きをがんばっている人が多く、大きな治療が必要となる人はあまりいませんでした。
- 離島診療は、大学で行う診療とちがって、すぐに違う科に紹介といったことができないので、成人系と発達系のそれぞれの先生があらゆる診療科の治療に対応しないといけなことが分かりました。
- 限られた時間の中で、スムーズに診療ができたのは、診療スタッフの連携と普段と劣らない環境によるものだと感じました。
- 離島実習を通して、診療だけではなく、諏訪之瀬島の方々の温かさにふれることができ、とても充実した3日間でした。また、機会があれば参加したいと思います。